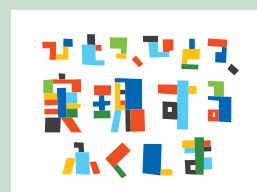


林業福島

No. **691**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



3

2022

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 花 園



森林・林業の再生に向けて

福島県町村会長
広島市長 遠藤 智

皆様方には、日頃より、町村行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。また、これまで森林の整備、保全等に日夜努力を重ねておられることに対しまして、心から敬意を表するものであります。

はじめに国民生活や社会経済活動に深刻な影響をもたらしている新型コロナウイルス感染症ですが、国内で初めて感染が確認されてから二年余りが過ぎました。今年に入り、オミクロン株の流行により爆発的に感染が拡大し、予断を許さない状況が続いております。

今後とも感染防止対策を徹底するとともに、県内の四六の町村が互いに尊敬し合って強固な結束と相互連携を図り、現在実施している三回目のワクチン接種が迅速かつ円滑に進むよう努めてまいります。

さて、県土の約七割を占めている広大な森林は、国土の保全や水源かん養等の公益的機能を有し、県民に様々な恩恵を与えてくれる貴重な財産です。しかしながら東日本大震災・原発事故により未だに広い範囲で放射性物質の影響を受け、さらに林業従事者の減少などで荒廃が進み、森林整備面積は震災前の半分程度に留まっているなど、依然として厳しい状況にあります。

私どもは引き続き、ふくしま森林再生事業や森林環境譲与税を活用しながら、緑豊かな森林・林業の再生に向けて取り組んでまいります。

また、昨年、二〇五〇年カーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」を実現することを基本的な方針とした「新たな森林・林業基本計画」が策定され、公共建築物等木材利用促進法の改正で脱炭素社会の実現に資することが明示されるなど、林業のさらなる発展が期待されております。併せて本県では本年四月に林業アカデミーが本格開講するなど、林業の人材育成に向けた施策が進展しております。

さらに近年は、若者や都市住民が都会から地方をめざす「田園回帰」の潮流の高まりや、山村地域と多様な関わりを持つ「関係人口」が増加しつつあります。特にコロナ禍におけるリモートワークやワーケーション、二地域居住が活発化していることから、この流れをさらに加速させるため、関係人口の拡大や定住・二地域居住等の環境整備への支援について、引き続き国に要請していききたいと考えております。

福島県町村会といたしましては、関係団体との連携を強化しながら、山村地域の活性化が図られるよう取り組んでまいりますので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら	普及指導員通信…………… 8
森林・林業の再生に向けて	森連だより…………… 9
福島県町村会長 広島市長 遠藤 智 … 1	きのこセンターだより…………… 10
令和3年度林業研究グループ等活動発表会・	木の文化を育む⑩…………… 11
林業普及指導員全体研修会を開催しました … 2	木材市況・ふくしま東西南北…………… 12
緑の募金のご協力、よろしくお願いたします … 3～4	はなしのひろば・お知らせコーナー…………… 13
受賞論文の紹介と福島県の林業・木材産業のこれから … 5～7	

令和三年度 林業研究グループ等活動発表会・ 林業普及指導員全体研修会を開催しました

福島県林業振興課

令和三年度の林業研究グループ等活動発表会については、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、参集範囲を制限し、令和四年一月三十一日(月)に、オンラインで開催しました。例年この発表会では、県内各地の自主的な実践活動を行っているグループの代表がその取組を発表することにより、各林業研究グループの活動の展開に資することを目的に開催しており、今回は六団体から、森林環境学習・体験活動など、様々な活動について発表がありました。審査会の結果、最優秀賞には石川静男さん(NPO法人南湖森林公園案内人の会)、優秀賞には大内聖司さん(特定非営利活動法人三春楽しい地域づくりの会)、特別賞には渡部正幸さん(NPO法人福島県もりの案内人の会会津支部)が選ばれました。午後には、全国林業研究グループ連絡協議会会長の齋藤正氏より、「全林研のこれからの方向性と活動事例」と題して、ご講演いただきました。各グループの発表課題は、次のとおりです。



林業研究グループ等活動発表会における講演の様子

- 里山再生への道 (NPO法人福島県もりの案内人の会 北地区支部 八巻良幸)
- 町民憩いの場「三春花の丘公園」づくり (特定非営利活動法人三春楽しい地域づくりの会 大内聖司)
- 市民に親しまれる森づくり (里山林整備と遊歩道(丸太階段)整備等を通して) (NPO法人南湖森林公園案内人の会 石川静男)
- 会津地方における森林環境学習について(森林整備から木材利用まで)

- NPO法人福島県もりの案内人の会 会津支部 (渡部正幸)
- 横町弁天山 里山再生事業への取り組みについての報告 (横町区里山づくり実行委員会 君島満三)
- 葉山里山の会の紹介 (葉山里山の会 栗田 昇)
- また、令和三年度林業普及指導員全体研修会も、令和四年二月一日(火)にオンラインで開催しました。今年度は、県内の各普及地区の代表者八名が、特用林産物等の推進、ICT技術の活用など普及活動の成果を報告し、それぞれの発表に対し活発な質疑応答が交わされました。発表会の審査の結果、最優秀賞には齋藤諒次さん(南会津農林事務所)、優秀賞には鈴木綾さん(県南農林事務所)が選ばれました。午後には、全国林業改良普及協会能力評価システム統括事務局の有馬隆継氏より、「能力評価システムの概要と導入効果について」と題して、ご講演いただきました。各林業普及指導地区からの活動発表課題名は、次のとおりです。
 - さきのこ原木林の再生促進 (県北農林事務所 主査 橋本正伸)
 - 古殿町産ごみみの出荷に向けた取り組み (県中農林事務所 主査 阿部由紀子)
- 森林調査等における効率化の推進



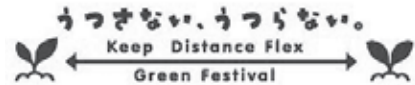
林業普及指導員の活動発表の様子

- GIS・GNSS・航空レーザ計測成果の活用 (県南農林事務所 技師 鈴木 綾)
- 緑の青年就業促進事業による「高校生林業見学会」を通じた担い手確保について (会津農林事務所 主査 山田 誠)
- ふくふくしめじの産地化促進に向けた取り組み (南会津農林事務所 技師 齋藤諒次)
- ふくしま森林再生事業を通じた森林整備の推進について (相双農林事務所 主任主査 小池陽子)
- 双葉地方における木材利用の推進 (富岡林業指導所 主査 小野田義宏)
- 森林整備の課題解消に向けた取組 (いわき農林事務所 技師 黒澤文彦)

令和4年度の緑の募金目標額 7,000万円

緑の募金のご協力、よろしくお願いいたします

緑の募金の実績



令和3年度の緑の募金につきましては、コロナ禍にもかかわらず、これまでのところ（4月～1月分集計）、下記のとおり6,160万円（前年度実績5,920万円）のご寄付をいただきました。多くの皆様方の善意に厚く御礼申し上げます。

緑の募金は、緑豊かな潤いある美しいふくしまを目指し、緑化の推進、森林の整備、次代を担う青少年の育成、森林ボランティア活動の支援などに活用させていただいており、地球環境の保全、地域の緑化環境の整備、緑化運動への理解醸成等に貢献しています。

令和4年度の「緑の募金」春季募金推進期間は、例年どおり4月1日から5月31日までとなりますが、引き続き緑の募金を活用した幅広い分野における緑化運動を展開してまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和4年の緑化運動標語

**「植えようみどり
めざせカーボンニュートラル」**

〒960-8043

福島市中町5-18 福島県林業会館内

(公社)福島県森林・林業・緑化協会

(緑化推進局 緑化推進課)

TEL 024-524-1480 FAX 024-521-3246

令和3年度「緑の募金」実績（令和3年4月1日～令和4年1月31日）

単位：円

市・地方緑化推進委員会	募金の種類					計
	街頭募金	家庭募金	企業募金	職場募金	学校募金	
福島市緑化推進委員会	24,987	0	1,598,918	796,779	1,303,590	3,724,274
伊達市緑化推進委員会	11,716	1,793,390	226,000	247,963	64,178	2,343,247
伊達郡緑化推進委員会	55,302	973,365	218,000	155,753	47,719	1,450,139
二本松市緑化推進委員会	8,019	1,439,700	10,000	239,600	281,440	1,978,759
本宮地域緑化推進委員会	77,425	889,600	371,830	107,239	114,981	1,561,075
国土緑化郡山市推進委員会	418	6,400,320	1,209,127	813,738	1,274,305	9,697,908
須賀川市緑化推進委員会	0	341	730,815	350,800	399,563	1,481,519
国土緑化岩瀬地方推進委員会	0	470,900	1,918	69,841	41,087	583,746
田村市緑化推進委員会	9,571	951,100	361,463	219,425	28,543	1,570,102
田村地方緑化推進委員会	0	861,700	30,000	167,023	0	1,058,723
国土緑化石川地方推進委員会	20,206	1,047,340	256,434	154,873	379,312	1,858,165
白河市緑化推進委員会	0	1,223,450	475,192	265,801	0	1,964,443
国土緑化西白河地方推進委員会	2,265	1,376,300	383,915	191,713	47,803	2,001,996
国土緑化東白川地方推進委員会	11,303	721,700	174,542	217,678	58,623	1,183,846
国土緑化会津若松市推進委員会	49,852	3,446,200	482,038	690,208	483,282	5,151,580
両沼地方緑化推進委員会	3,212	1,423,870	164,495	225,833	0	1,817,410
会津耶麻地方緑化推進委員会	9,051	934,000	110,321	164,885	146,453	1,364,710
喜多方市緑化推進委員会	2,929	1,509,200	385,000	502,179	9,200	2,408,508
南会津地方緑化推進委員会	6,577	1,323,805	33,410	177,307	26,135	1,567,234
相馬地方緑化推進委員会	9,165	1,083,474	0	595,675	0	1,688,314
双葉地方緑化推進委員会	50,597	0	0	0	0	50,597
いわき市緑化推進委員会	7,319	8,213,176	996,730	1,550,324	428,400	11,195,949
小計	359,914	36,082,931	8,220,148	7,904,637	5,134,614	57,702,244
事務局	190,076	0	2,775,931	970,205	0	3,936,212
合計	549,990	36,082,931	10,996,079	8,874,842	5,134,614	61,638,456

※街頭募金にイベント募金、常設募金等を含む

【緑の募金の活用事例】を紹介します。



第4回ふくしま植樹祭（浪江町）集合写真



第4回ふくしま植樹祭（浪江町）植樹作業

- (1) 県内各地で森林づくり団体等が、植栽や下刈りなどの森林整備活動を行うことで、自然災害の防止や地球温暖化防止等に貢献しています。
- (2) 県内の各市・地方緑化推進委員会が「地方植樹祭」を開催することで、地域の環境緑化の推進と緑化意識の高揚が図られています。
- (3) 毎年開催している「ふくしま緑の百景歩こう会」の参加者に、緑化苗木を配布することで、緑化の重要性を普及しています。



森林づくり団体による植樹作業



地方植樹祭（棚倉町）植樹作業



第33回ふくしま緑の百景歩こう会（富岡町）苗木配布

- (4) 小・中・高校生や地域のNPO法人が、花苗の定植や花壇づくりにより学校や公共施設の環境整備を推進することで、地域の環境緑化の推進と緑化意識の高揚が図られています。



小学生による花壇整備



NPO法人による花苗の定植作業

- (5) 緑の少年団が学習活動や奉仕活動を通して、緑化の重要性を知り、主体的に地域の環境美化に取り組んでいます。



緑の少年団が育てた花を幼稚園へプレゼント



クヌギ苗の下刈り作業



受賞論文の紹介と 福島県の林業・木材産業のこれから

木村憲一郎 (福島県林業研究センター)

1 はじめに

本誌編集委員会のご厚意により、この度、論文の受賞報告と内容紹介をさせていただくこととなりました。対象は表1のとおりで、いずれも福島県の木材需給や林業・木材産業をテーマとしています。本県の林業・木材産業は、県内経済はもとより持続可能な森林経営にとって重要な産業です。本稿では二つの論文を紹介し、今後の課題を共有します。読者の皆様にとって、林業・木材産業のこれからを考える一助となれば幸いです。なお、論文執筆は個人的な活動であり、本稿についても個人の见解であることを申し添えます。

2 論文の紹介

(1) 「製材・チップ需要下における福島県の林業・木材産業構造と国産材供給拡大への課題」

本論では、一九六〇年代以降の本県林業・木材産業を対象に、歴史的

展開の整序と、東北各県との比較分析を行い、本県の構造的特徴や国産材供給拡大の課題を明らかにしてい

表1 受賞論文

受賞名	論文名	著者	学術誌名
東北森林科学会賞 (2021年12月授与)	製材・チップ需要下における福島県の林業・木材産業構造と国産材供給拡大への課題－1960年代以降の木材需給と木材産業の史的分析から－	木村憲一郎	東北森林科学会誌 (2018) Vol.23(1): 1－10
日本森林学会誌論文賞 (2020年3月授与)	原発事故が福島県の木材需給に与えた影響と林業・木材産業の現状	木村憲一郎	日本森林学会誌 (2019) Vol.101(1): 7－13

注) 論文は科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE) に公開されています

表2 福島県の林業・木材産業の歴史的区分

区分	時期	キーワード
木材需要拡大期	1960年代前半～	木材需要量が2倍に上昇、外材増える、スギ微減 県木連や事業協同組合の組織化、木材市場や木材団地の整備 小名浜港の木材専用港区 (藤原埠頭) が供用開始
木材需要安定期	1970年代前半～	木材需要量が戦後最大を記録、外材増える、スギ横ばい JAS認定工場、集成材工場、プレカット工場の本格稼働 小名浜港が東日本有数の木材輸入港に発展
木材需要減少期	1990年代前半～	木材需要量が約半分に減少、外材も急減 パルプ工場操業停止に伴い広葉樹も急減、スギ微減 木材工場数は減少
国産材回復期	2000年代前半～	木材需要量は横ばい、スギのシェア拡大 木材工場数の規模拡大

ます。研究の主な方法は、各県統計データの解析と県林政史および市町村史の渉猟です。
調査の結果、本県林業・木材産業の歴史は四期に区分されることが分かりました (表2)。木材需要が激

表3 東北地方各県との比較

	需要部門別素材生産割合			素材生産量と森林蓄積 (スギ)		
	製材用	合板用	チップ用	生産量 (a)	蓄積 (b)	a / b
青森県	54%	18%	27%	59.4	4,684	1.27%
岩手県	39%	31%	31%	57.2	6,702	0.85%
宮城県	34%	44%	22%	37.0	3,912	0.95%
秋田県	39%	48%	13%	98.0	10,116	0.97%
山形県	45%	24%	32%	23.5	4,907	0.48%
福島県	62%	2%	36%	46.4	9,326	0.50%

資料) 平成24年木材需給報告書 (林野庁) ほか
単位) 生産量と蓄積の単位は万m³

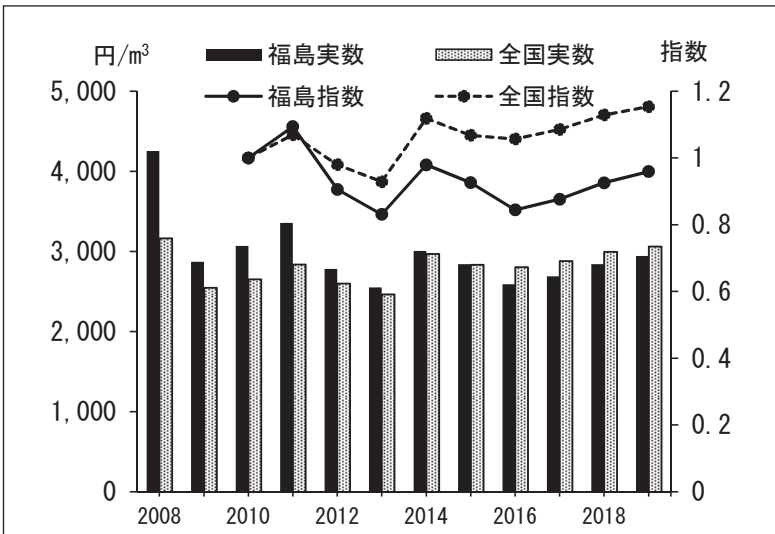
しく変動する半世紀の中で、需給調整に大きな役割を果たしたのは外材で、スギは供給量の増減幅が小さく、弾力性の弱さが指摘されました。
また、木材の用途や素材生産の特徴として、需要部門別の素材生産量



写真 福島県産の木材(左)と木材製品(右)
資料) 筆者撮影

(2) 「原発事故が福島県の木材需給に与えた影響と林業・木材産業の現状」
本論では、主に政府統計を用いた

では(表3)、本県は東北他県に比べて合板の割合が低い一方、製材六割、チップ三割といずれも高い傾向にありました。この割合は一九六〇年代以降ほぼ変わっておらず、本県の木材需給は製材とチップに規定される構造にあることが確認できました。スギの蓄積量と素材生産量の関係では(表3)、生産量の割合は山形県に続いて低く、供給上の課題が示唆されました。また、製材用・チップ用原木の安定供給を念頭としたスギ生産体制の強化を指摘しています。

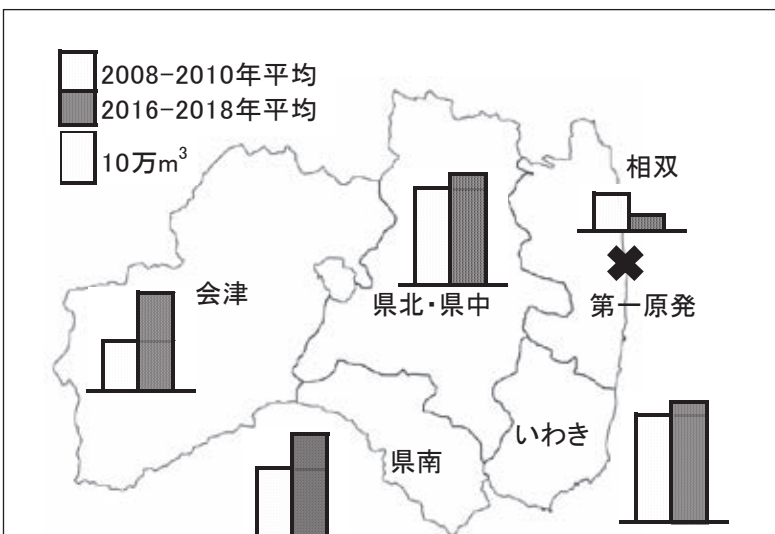


資料) 山林素地及び山元立木価格調 (一般財団法人日本不動産研究所)
注) 論文の表に直近データを加筆し図化

図1 山元立木価格 (スギ)

定量分析によって、原発事故が本県木材需給に与えた影響と林業・木材産業の現状を明らかにしています。分析では、はじめに全国および他被災県との比較を試みました。その結果、原発事故後、本県では木材需要量が堅調に推移しているものの、県産材のみでは旺盛な需要に対応できず、移入材(岩手、茨城、栃木)が急激に増えていることが確認できました。また、木材価格の分析では、

製材品価格の伸びが全国平均より低く、山元立木価格では(図1)上昇基調にある全国動向と異なり、一段と低迷が進んでいました。さらに、県内五地域における素材生産量の比較では(図2)、相双地方の急減とは対照的に、他地域は増加傾向にあり、わずかな数年の間で急激な産地移動が起きたことがデータ上から立証されました。本論ではその要因を、営林活動の制限や木材価格の低迷に



資料) 木材需給と木材工業の現況 (福島県)
注) 論文の表に直近データを加筆し図化

図2 地域別の素材生産量

伴う素材生産活動の停滞にあるとされています。また、川中・川下側の復興が進む一方、川上側の経営環境は一段と悪化している、川上を以て相双地方の実情に即した長期的な対策が必要であると結論づけています。

3 林業・木材産業の課題とこれから

現状や課題の把握には、福島のみ

ならず他県との比較や歴史のふり返りが必要と考え、執筆に臨みました。その結果、いくつかの課題を浮き彫りにすることができましたが、とりわけ大きな課題は素材生産力、山元立木価格、相双地方にあると思われる。次に、県内の最近の動きや知見をもとに、これから考えます。

第一の素材生産力では、スギ生産量の伸びが低く、本稿では触れませんでした¹⁾。ただ、このことは生産力の伸び代が大きいことの現れとも言えます。震災後、作業道の累積総延長は二倍に伸び、まもなく新たな人材育成も始まります²⁾。高い技術力を持つ担い手が、県内各地で効果的な作業システムを実践し、定着させていくことが求められます。なお、その際大切なことは生産量を増やすだけでなく、山元還元の見点を忘れないことです。第二の山元立木価格の低迷と関わりますが、森林経営意欲の減退が懸念されます。まずは価格形成の実態を把握し、その上で山元のプレzensを高める新たな枠組みの検討をし、現場では製材・チップの動向を意識した採材方法の定着が必要になってくるでしょう。

第三の相双地方では、営林活動の

再開が課題となっており、その要因の一つに森林内の放射能汚染が指摘されています。現在、当センターでは大学や企業とともに、3Dスキャナー搭載型のドローンや深層学習を活用し、線量や材積を自動でかつ効率的に取得できるシステムの開発に取り組んでいるところです(図3)。今後は、こうした新技術の社会実装が強く求められます。また、より詳細な実態把握も重要でしょう。例えば、相双地方の素材生産量をみると、民有林材では事故前の七割にまで回復していますが、国有林材は三割に止まっています³⁾。被災地の復興にはきめ細かな対策が必要です。



図3 開発中のシステム(イメージ)

所有形態別の違いなど、詳細な現状分析が今なお必要です。

4 まとめ

最後に、筆者に研究の機会を与えて下さったのは社会人博士課程への進学を勧めていただいた大学の恩師と同窓の先輩職員です。本論の執筆や受賞では、査読者、推薦者、そして多くの研究仲間の支えがありました。関係する皆様に改めて感謝するとともに、この受賞を励みに、社会や科学の発展にさらに貢献できるように、一層研究に精進していきたいと思えます。

5 引用文献

- 1) 木村憲一郎(2021)「原発事故が特用林産物の生産・流通に与えた影響と今後の研究課題」日本森林学会誌Vol.103:13-21
- 2) 金子信博・木村憲一郎(2022)
 - 1) 「特集東日本大震災から10年目のいま(6) 福島県の森林・林業と地域」山林No.1651:17-25
 - 2) 木村憲一郎(2021)「森林利用の現状からみた福島における森林管理の課題」東北森林科学大会発表要旨集:2

木村憲一郎氏 プロフィール

会津若松市出身
 岩手大学農学部林学科卒業
 岩手大学大学院(博士後期課程 社会人入学)修了
 博士(農学)
 日本森林学会など多数の学会会員として活躍
 日本森林学会誌論文賞など受賞多数
 現福島県林業研究センター副所長



県中管内における航空レーザー計測を 活用した森林整備について

県中農林事務所

林業普及指導員 内海 享

1 はじめに

県中管内においては、これまで3市町において航空レーザー計測を実施し、林業専用道の設計等に活用しておりますが、更なる森林整備の推進に向けても航空レーザー計測の活用を普及させる必要があり、当管内での先駆的取組を実施している古殿町の活用事例及び今後の取組方針について紹介します。

2 古殿町の活用事例

古殿町では、森林整備への活用を目的に登記簿情報による地形図（地籍調査完了済み）、地番、面積を搭載し、他にも施業履歴、地目、所有者情報などの情報を町独自でGIS（地理情報システム）に整備してきました。

しかし、町では平成25年度から実施しているふくしま森林再生事業で民有林の森林整備を進めるにあたり、施業が遅れ優先して森林整備を実施する森林はどこにあるのか特定できないという問題があり、これまでのGIS情報では森林所有者等へ説明・提案ができない状態でした。このことから、航空レーザー計測により得られるデータを活用して、森林所有者への施業提案を行うことで森林整備を推進しています。

(1) 航空レーザー計測について

航空レーザー計測により、成立本数及び樹高のデータが得られ、これをもって直径、樹種が推計されます。さらに材積、収量比数等が算出されることから、現場を確認する前に、施業対象地かどうか判断できます。搬出間伐する場合の数量算出例は次のとおりです。

○単木情報

No	樹種	樹高	胸高直径	材積
1	スギ	20m	24cm	0.441m ³
2	スギ	21m	24cm	0.466m ³
・	スギ	・	・	・
・	スギ	・	・	・

○区域の林況

林分区域	S-1
対象面積	1.00ha
解析計測材積	690m ³
区域全体成立本数	1,120本
平均胸高直径	25cm
平均樹高	22.5m

○施業数量

間伐率	30%
間伐本数	207本
間伐材積	207m ³
利用率	70%
利用材積	144m ³

面積
測量

施業
決定

(2) 活用状況

ふくしま森林再生事業における年度別計画作成では、森林整備予定箇所の林分調査（プロット調査による成立本数、樹高、樹種の調査）を行う必要がありますが、町では航空レーザー計測で得られたデータを活用することで林分調査を省略し、事業費の縮減や効率的な計画策定を図っています。また、航空レーザー計測で得られる微地形図により、傾斜や既存の作業道が判読できることから作業道線形を決定する際には、急傾斜地を避けることや既存の作業道を利用するなど線形計画に活用しています。このように航空レーザー計測を利用して得られた森林施業計画を、森林所有者へ提案することで森林整備を推進しています。

表：ふくしま森林再生事業の森林整備実績

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	計
面積 (ha)	2.10	1.56	4.68	11.79	39.90	30.26	19.38	109.67

3 今後の普及について

当所においては、効率的な森林整備の実施のため、これまで森林整備等の設計内容を事前に確認・指導し、作業道延長の短縮や地形に沿った線形の見直しなどを行ってきました。今後も森林所有者等に対して具体的な事前説明や施業提案を行うとともに、航空レーザー計測の活用ができる市町に対して、今回紹介した古殿町の事例を普及しながら、円滑な森林整備の推進につなげていきたいと考えております。

森連だより

税制改正（適格請求書等保存方式・電子帳簿保存法）に係る説明会を開催しました

当会は、一月二一日、郡山市において、森林組合職員を対象とした税制改正に係る説明会を開催しましたので、紹介いたします。

開催にあたっては、一般の税制改正の内容が業務に及ぼす影響が大きいため、改正点について理解を深められるよう企画し、郡山税務署の笠原審理専門官に講師をお願いしました。

「適格請求書等保存方式（インボイス制度）」について

インボイス制度は、令和五年十月一日より適格請求書等保存方式が開始されるため、事業者としての登録申請手続を令和三年十月一日から令和五年三月三十一日までにを行う必要があります。笠原講師にご説明頂いた中で、交付義務の免除となる取引の一つに生産者が森林組合等に委託して行う林産物の譲渡が挙げられ、参



加者は熱心に耳を傾けていました。しかしながら、林産物の譲渡に関する全ての取引が免除対象となる訳ではないとのことで、制度運用開始までに現在の取引が免除の対象となるのか留意し、制度開始までに取引の分類に戸惑うことのないように今から準備を進めていく必要があると感じました。

「電子帳簿保存法」について

電子帳簿保存法が改正され令和四年一月一日より、国税関係帳簿などに関して紙媒体での保存から電子媒体での保存へと変遷する大きな転換期となりました。電子取引データ保存は義務化となっておりますが、猶予期間として二年が設けられ、まだ電子保存の体制が整っていない場合は計画的に対応を行う必要があります。ここ最近ではリモートワークが一般化し、電子媒体を用いた取引の

機会と重要性は日に日に増していきま。取引のみでなく、仕訳帳などの帳簿類についても、電子方式で作成している場合はデータのまま保存することも要件を満たすことで可能な為、今後の対応も含めて文書保存に係る負担軽減が達成できるよう取り組みたいと思います。

時節柄、出席者同士の十分な距離の確保、開催日前日には参加予定者へ体調に異常がないか確認を行うなどの対応があり、コロナ禍での情報発信の難しさ、対面で開催することの意義について今一度考えさせられました。そのような

状況下でありましたが、開催後に参加者から体調不良等の報告がなく、感染拡大防止を最大限に考慮することで、次回の会議開催に向けて取り組んでいきたいと考えております。

本県においては、まん延防止等重点措置がとられておりま



参加者同士の距離が十分に確保できる会場にて開催

すが、一人一人が感染対策を心掛け、一日も早いコロナの収束を願うばかりです。結びに、講師を派遣下さいました郡山税務署のご配慮に深く感謝申し上げますとともに、今後も各種研修など会員組合への情報提供に努めて参りますので、ご協力をお願いいたします。

きのこセンターだより

令和3年度
福島県きのこセミナー
を開催

(公社) 福島県森林・林業・緑化協会
きのこ振興センター

令和三年度福島県きのこセミナーを、下表の日程で開催しました。例年、きのこ生産者、県、市町村、各種団体等から多くの皆様にご参加いただいているところですが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。今年度に入っても依然として新型コロナウイルス感染症の脅威が続いていることから、今年度はセミナーの形式を変更して、福島県内在住のきのこに興味のある一般の方も対象に、テーマ別に全四回、各回十名以内の少人数制とし、感染症対策を行った上で開催しました。ここでは、各回の内容について簡単にご紹介します。

① 第一回：マイタケ原木栽培の楽しみ
マイタケ原木栽培の基本的な流れについて、講義を行いました。原材料である原木の調達方法やその保管方法、仕込みの方法等について説明した上で、培養（仮伏せ込み、本伏せ込み）の際の管理方

法や発生管理の方法について重点的に説明しました。また、座学のほかセンター内で試験発生させているマイタケを実際に見てもらいました。参加者は発生しているマイタケを興味深く観察し、活発に質問するなど熱心に受講されました。

② 第二回：簡単なナメコ・ヒラタケ自然栽培
二回目は、ナメコとヒラタケの菌床自然栽培方法についての講義を行いました。ここでは二・五

の栽培袋を使用した栽培方法における原材料や仕込み方法、培養方法や発生方法とその際の注意点について説明しました。また、実習として、二・五

キログラム菌床にヒラタケ種菌を接種し、ヒラタケ菌床を仕込む方法を学んでいた。参加者は皆真剣に実習に取り組み、後日自分が接種したヒラタケ菌床を取りに来た参加者もいました。

③ 第三回：家庭で楽しむ原木栽培
都合により、中止となりました。



第1回セミナーの様子



第2回セミナーの様子



第4回セミナーの様子



試食①肉厚きこと真鯛のポアレ
～きのこタルタル&バジルソース添え～



試食②
ほんしめじの炊き込みご飯

④ 第四回：家庭で美味しく、きのこ料理
四回目は、きのこに含まれる栄養成分やその効能について、さらにその栄養成分をより多く摂取するための効果的な調理方法等についての講義を行いました。

また、当協会主催で毎年開催している「福島県きのこ料理コンクール」についてお知らせし、第一回～第六回までの歴代受賞者のきのこ料理レシピを紹介しました。紹介したレシピは簡単に出来るものも多く、皆さん興味深く受講されていました。試食品として提供した「肉厚きこと真鯛のポアレ」きのこタルタル&バジル

ソース添え」は、第六回福島県きのこ料理コンクール特別賞受賞作品で、県オリジナル品種であるほんしめじ「ふくふくしめじ」を使用した炊き込みご飯と共に、大変好評でした。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年とは異なる形での開催となりましたが、参加者はきのこに興味を持った方々であったため、皆さん意欲的に受講されました。来年度の感染症の状況が見通せない現状ではありますが、今後も状況に応じた形で、積極的に情報発信をしてまいります。

木の文化を育む³⁶

養蜂が織りなすハーモニー〜自然・地域・人をつなぐ〜

(有限会社 松本養蜂総本場)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

会津地方には豊かな自然が育んできた郷土の歴史と文化があります。漆器や木綿、陶芸などの伝統工芸品のほか、四季折々の伝統野菜や地鶏、蕎麦、米、地酒は古来より多くの人々に親しまれてきました。そして、ブナの天然林が源となっている『蜂蜜』も植生の豊富な森林を守り、自然と共存することで得られる会津の郷土食材の一つです。

○ブナの森と養蜂

会津の森で養蜂を営んでいる有限会社松本養蜂総本場は、昭和十六年創業以来、会津ならではの安全・安心な蜂蜜を生産し、二〇〇六年には国産で唯一「有機蜂蜜」の認証を取得しています。

奥会津の豊かな植生を誇るブナの天然林は、先代が「博士山ブナ林を守る会」を立ち上げ、自然体系を無視したブナの木の伐採から守り抜いた大切な財産です。五代目の代表取締役 松本高明さんは、妻の彩子さ

んと共に先代から受け継いだ、ブナの森と国産有機蜂蜜の魅力、山の恵みの素晴らしさを多くの人々に発信しています。

○「次の80年プロジェクト」

松本さんは、人と自然が共生する養蜂を通して、自然・地域・人とのつながりを循環していくこと、これらのハーモニー(調和)を目指しながら、これからの八〇年に向けて、後世につないでいくための様々な取り組み「次の80年プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトは養蜂を通して森林、里山の環境保全のみならず、伝統産業や地域文化とのコラボレーションで地域発展を目指す取り組みです。

昨年は会津の伝統産業である会津漆器をつくる地元企業と共同で、漆の花の蜂蜜を採取することに挑戦しました。漆器づくりの原料となる漆の木は、現在では国内でも生育地が限られ希少なものとなっています。漆の木の生育活動を続けている植

栽地で、漆の花が咲く初夏の僅か一、二週間の期間に採取された蜂蜜は驚くほどの美味しさで、直ぐに完売してしまったそうです。この売上の一部は、会津で漆の木の植栽活動を続けている特定非営利活動法人の活動に寄付されます。地元の方々に養蜂を知ってもらえたこと、さらに漆器をつくる作家さんとの交流は、互いの商品を知るよい機会となったそうです。「人と人とのつながりは全ての基となっています。プロジェクトを通して地産地消や持続可能な取り組みにつなげていくことを大切にしていきたい」と松本さん。

○会津の森林と養蜂

コロナ禍以前は、台湾や中国から只見川流域の絶景を観にくる観光客もいたことから「会津の森林は観光資源としても価値あるものです」と松本さん。奥会津一帯の落葉広葉樹林の魅力と可能性、山の恵みを頂いていることの素晴らしさ、養蜂と林業とのつながりにも関心を寄せ、その大切さを多くの人々に伝えていきたいと考えています。

○まとめ

松本養蜂総本場では一人でも多くの子ども達に養蜂やミツバチ、自然について関心を持ち、様々なことを考えるきっかけにしてほしいという想いで、ミツバチの生態や自然の摂理が分かる蜂場見学を実施していま

す。貴方も自然・地域・人をつなぐ、豊かな自然に想いを馳せてみませんか。



蜂場見学



森の中の蜂場



有機蜂蜜『はな』『はだ』

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(2021年12月15日現在)

(単位：㎡当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	10 (9~10)	0	(0~0)		10 (10~10)	0	10 (9~10)	0
		10~14		並	スギ	16 (16~17)	0	(0~0)		15 (14~16)	0	16 (14~17)	0
	中	14~22	3.00	並	スギ	17 (14~19)	0	12 (12~12)	0	18 (17~20)	△2	17 (12~20)	0
				並	ヒノキ	24 (18~30)	0	(0~0)		27 (26~28)	1	26 (18~30)	1
		6.00	並	スギ	20 (16~22)	0	10 (10~10)	0	21 (21~21)	△1	18 (10~22)	△1	
			並	ヒノキ	31 (30~32)	2	(0~0)		32 (32~32)	1	31 (30~32)	1	
		20~28	3.65	並	スギ	16 (16~16)	0	11 (11~12)	0	15 (14~16)	0	14 (11~16)	0
				並	スギ	15 (14~16)	0	11 (11~12)	0	16 (15~18)	0	14 (11~18)	0
	並			アカマツ	12 (11~14)	0	15 (15~15)	15	11 (9~14)	0	12 (9~15)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)		(0~0)		38 (38~38)	0	38 (38~38)	0
				並	米マツ	(0~0)		(0~0)		37 (37~37)	0	37 (37~37)	0
		28以下	3.80	並	エゾマツ	(0~0)		(0~0)		34 (34~34)	0	34 (34~34)	0
並				アカマツ	(0~0)		(0~0)		34 (34~34)	0	34 (34~34)	0	
パルプ用材			並	マツ	7 (7~7)	0	(0~0)		(0~0)		7 (7~7)	0	
			並	広葉樹	10 (10~10)	0	(0~0)		(0~0)		10 (10~10)	0	

十一月の原木市場への入荷量は、前月比四割増(前年比一六割増)の二六、一六〇立方メートルとなっている。
 販売量は、前月比三割増(前年比一八割増)の二六、〇二四立方メートルとなっている。
 十二月の価格は強保合いとなっている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	0 (0~0)	0	7 (6~8)	0
	13~14		並	カラマツ	11 (8~14)	11	8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	15 (14~16)	0	10 (8~11)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。
 2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。



楽しもう!!

南会津農林事務所森林林業部 阿久津 純

そう言うって参加した二〇二一年九月二六日の南会津町びわのかけ陸上競技大会。それは町の広報誌で見つけた、私が中学生の時からある南会津の競技大会です。

コロナの影響で参加者は減ったそうですが、南会津農林事務所職員の皆さんに声をかけ、〇十年ぶり参加しました。

私が選んだ競技は一〇〇メートル団体リレーと一〇〇メートル走個人。

一〇〇メートルリレーの団体名は「チーム〇治」!(↑副部長のお名前をお借りしました)

リレーの対戦相手は中学生の男子チームと女子チームでした。私は第一走者。予想通りスタートしたと同時に中学生チームに大きく離されてしまいました。

ですが私たち「チーム〇治」は走り切り、その結果成年女子チームである私たちが見事「優勝!!」:~といふのも成年女子チームの参加者は私たちだけでした。(笑)

その後一〇〇メートル走個人は、またもや中学生の女子と走ることに。スタートはしたものの、先程も述べた

ようにみるみる差がつき、中盤くらいから足全体が悲鳴をあげ、走っているか歩いているか自分でもわからない速度で、やつとのことゴールしました。こちらは成年が二人だったので二位入賞になりました。

結果、「チーム〇治」はリレーでトロフィーと賞状をいただき、私は一〇〇メートル走個人で銀メダルと賞状をいただきました。〇十年ぶりの入賞は、それはそれは嬉しかったです!

また来年度も機会があれば参加したいと思っていますので、南会津町に住む方は声をかけられた際にはぜひご参加ください!!



「チーム〇治」前列/筆者は前列右端

はなしの
ひろば

それぞれに

平成二三年十一月末、私は、出張で滋賀県大津に向かっていた。午後一時頃に京都駅から琵琶湖線に乗り換えたが、人の移動が少ない時間帯だったとみえ、車両には、私も含め乗客は三人だった。ボックスシートの座席に座りふと眺めた町並みは、晴れた晩秋の昼下がりに少しまどろんだ様な町並だったが、透明感があってきれいだった。(我がふる里には、目に見えない放射能が降ったというのに...)と正直、複雑な思いだった。

全国から関係者が集まったその会議の席で「福島は、大変でしたね。みんな防護マスクをして歩いているのですか」と聞かれたり、中には私の手を取り「よく来てくれましたね」と涙を流して言われたりもした。会食の席では、隣の人が「福島には気の毒ですが、当分福島県産の食材は買わないつもりです」と。三月十二日の福島原子力発電所水素爆発事故以来、初めてかけられた出先での声は、それぞれにみな正直だった...

あの日から、一年一年が経過し、今、十一年の年月を積み上げてきた。この十一年にそれぞれがどれほど鍛えられてきただろう...

日本画家 齋正機さん(福島市出身)が描いた「夜ノ森風物語」の一枚がある。桜のトンネルに集うみんなの普段着の笑顔がいい。春の優しい風のように桜の花びらも舞っている。

桜の季節は、三月十一日を越えて巡ってくる。もしかしたら、桜の花は、一年一年を積み上げてくる全ての人への「心のご褒美」なのかも知れない。それぞれに桜の季節が巡ってくるのももうすぐだ。(都)

表紙の写真



「花園」

第36回 ふくしま緑の写真コンクール 入選
受賞者 澁谷謙治さん(福島市)
撮影場所: 福島市

編集

発行人

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
(福島市中町五番一八号県林業会館内)
飯沼隆
飯沼隆
株式会社印刷株式会社
(定価 一〇〇円)

お知らせコーナー

○野生山菜等の採取及び出荷・販売について

今年も山菜の季節となりました。国から出荷を制限されている市町村から採取された野生山菜等は出荷・販売、飲食店や宿泊施設などでの提供、無償譲渡、フリマアプリ等での販売を行うことができませんのでご注意ください。なお、野生山菜等の出荷制限については福島県林業振興課のホームページで最新の情報をご確認ください。検索ワードは「福島県 山菜 出荷制限」です。
(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055e/ringyo-monitoring.html>)

また、出荷が制限されていない市町村で採取された野生山菜等がありますので、県農林事務所までご相談ください。安全な野生山菜等の流通を図るため、皆様のご協力をお願いします。

○連絡先一覧

市町村名	事務所名	住所・連絡先
福島市、二本松市、伊達市、本宮市、伊達郡・安達郡の町村	県北農林事務所 (森林林業部)	福島市杉妻町2-16 (福島県庁北庁舎5階) 024-521-2632
郡山市、須賀川市、田村市、岩瀬郡・石川郡・田村郡の町村	県中農林事務所 (森林林業部)	郡山市麓山一丁目1-1 024-935-1367
白河市、西白河郡・東白川郡の町村	県南農林事務所 (森林林業部)	棚倉町大字関口上志宝50-1 0247-33-2123
会津若松市、喜多方市、耶麻郡・大沼郡・河沼郡の町村	会津農林事務所 (森林林業部)	喜多方市松山町鳥見山字下天神6-3 0241-24-5734
南会津郡の町村	南会津農林事務所 (森林林業部)	南会津町田島字根小屋甲4277-1 0241-62-5375
相馬市、南相馬市、相馬郡の町村	相双農林事務所 (森林林業部)	南相馬市原町区錦町一丁目30 0244-26-4305
双葉郡の町村	富岡林業指導所	富岡町小浜553-2 0240-23-6084
いわき市	いわき農林事務所 (森林林業部)	いわき市平字梅本15 0246-24-6193

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジの GP シリーズ
グラップルプロセッサ

GP-35B

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ

- ・最大 38 度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-8 コントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ(オプション)

For the future with forest



イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(南東北支店) 福島県郡山市八山田 5-314

TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西 5-1

(支 店) 札幌・東北・南東北・関東・中部・関西・中四国・九州

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリーンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シートハイバリア

ハチ退治

ハチノックL (巢処理用スプレー)
ハチノックS (携帯用スプレー)

新商品

猪レスSTOPテープ

ヒルノックWスプレー

ヒルノックW



レインボー薬品株式会社

東京都台東区上野 1-19-10 お問い合わせ TEL. 03(6740)7777 平日 9:00~17:00 (土日・祝日は休み)



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1